

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100594		
法人名	有限会社 ふれ愛		
事業所名	グループホームふれ愛		
所在地	〒085-0036 釧路市若竹町18-18 (電話) 0154-22-7941		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 7月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	12.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄金コンクリート	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	12,500~23,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17名	男性 2名	女性 15名
要介護1	0名	要介護2	6名
要介護3	6名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 83.6歳	最低 74歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中田内科医院・長内歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、運営法人の通所介護事業所に隣接している。運営者と職員は、相互に意志疎通を図り、利用者本位の生活と介護を目指し、日々のケアサービスに取り組んでいる。また、職員の離職は少ない。さらに、家族の思いを受け止め、不安を取り除くように努めるなど、家族とのコミュニケーションを大切にしていることが信頼関係に繋がっている。事業所は町内会と協力して除雪するなど、地域住民にも広く理解された存在になっている。重度化の指針も全職員で共有し、家族、本人、医療関係者と話し合いを重ねながら看取りを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は地域との日常的な交流の深まりの期待であるが、地域住民が犬の散歩途中や子供を連れて事業所に立ち寄るなど交流も広まっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で評価に取り組み、管理者が取りまとめスタッフ会議で話し合っている。職員自身の振り返りの機会とし、自己評価は外部評価とともにサービスの質の向上に繋げる機会ととらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。会議では事業所の報告に終始することなく参加者から意見や要望も聞いている。また、提案事項や意見は事業所に持ち帰り、職員と話し合い運営に活かすよう取り組んでいる。会議は行政機関の出前講座を利用した研修の機会にもなっている。参加できない職員は職員会議で、家族には文書で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪が多く、できるだけ家族とのコミュニケーションをとり話を聞くよう努めている。運営推進会議にも家族の代表が参加している。また、家族会を開き、意見や苦情には真摯な対応を心がけている。なお、重要事項説明書に苦情窓口を明記し、事業所内にも提示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し行事にも積極的に参加したり、事業所行事にも地域住民が参加するなど交流を図っている。地域住民が定期的にボランティアとして事業所に訪れている。町内会には高齢者世帯が多いため、冬季期間近隣の除雪をし、地域住民に喜ばれ交流も深まっている。また、ジュニアインターンシップで高校生の受け入れを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として、地域の方々との交流を大切にし、ともに生きる喜びを分かち合えることを支えていく、という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は会議の中でも話し合いケアの統一を図っている。職員は理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は町内会行事に可能な利用者とともに参加をしている。事業所主催の盆踊りやカラオケ大会などにも地域住民が参加している。また、地域住民が事業所を訪れ、利用者と会話を楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、会議で話し合っている。外部評価の結果について、真摯に受け止め改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。会議では、事業所の行事案内や運営状況、外部評価の取り組みも報告し、参加者から要望や意見を聞き、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が市の窓口と必要に応じて話し合い、管理者と職員に報告をしており、市とは連携を取り合っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ふれ愛通信」を月1度発行し家族に利用者の近況、事業所行事等を定期的に報告している。また、家族来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態等とともに金銭出納についても報告し確認してもらっている。状況に変化があった場合は、その都度電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に、気軽に意見等を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。運営推進会議に家族代表者が参加しており、家族会も開催している。利用開始時に重要事項説明書で苦情窓口について説明を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えているが、やむを得ない場合は、細心の注意を払い利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育成することに力を入れている。管理者も研修のためにシフトを変更するなど、職員が積極的に研修参加できる環境を整えている。研修後は報告書を作成し会議で報告を行い、情報を共有化して日々のケアに活かすように話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会や職員交換研修会等も相互に行っている。また、近隣のグループホームの行事に参加するなどの活動を通じて学び合っている。懇親会にも参加し積極的に交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から相談を受けた後、本人と家族が事業所を見学し、時には家庭訪問をしながら、家族と相談し本人が馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業を一緒に行うことで利用者から学ぶことも多い。調理なども利用者とともにするなど、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーション、本人や家族から話を聞くなどして、利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は普段の関わりの中から汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向を確かめながらセンター方式を活用し、会議で職員が課題や思っていることを書き出し、介護計画に反映させて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を定期的に見直すとともに、利用者の身体状況に変化があれば直ちに見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が月2回訪問し、健康管理を行っている。法人のデイサービスのリフト車での車いすの利用者の通院送迎や理容室、墓参り、外食、温泉等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての利用者が利用開始前のかかりつけ医に受診をしている。かかりつけ医の往診を月2回受けている利用者もいるなど、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化のあり方について事業所の指針があり、家族の同意を得ており、職員全員で方針を共有している。重度化や終末期には家族や本人、医療関係者と早い段階から話し合いを重ねながら受け入れる支援体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はせず、個人の尊厳を日々大切にケアに努めている。個人情報の取り扱い、記録等も適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切にしながら、散歩や買物等の外出を支援をしている。居室にいたい利用者には孤立しないように、かつその人らしく過せるよう希望に沿って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。また、利用者の身体状況に合わせて粥、刻み食等を用意し、常に手づくりで栄養を考えたバランスよい食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが利用者の希望に応じて夜間入浴も行っている。入浴剤を入れたり、一緒に歌ったりしながら入浴を楽しんでいる。また、利用者の要望に応じて温泉に行くなどの支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力に応じて職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。畑仕事、花壇の手入れ掃除等も行い、生活歴を活かしたその人らしい役割を見つけ支援を行っている。また、外出の好きな利用者とは散歩や買い物に一緒に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所に隣接するデイサービスや近隣の公園散歩、買い物、ドライブ、日帰り温泉、外食などできるだけ戸外に出かけるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者と全職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日々鍵のかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災センターで職員全員が消火、避難誘導、心肺蘇生、地震体験の訓練を行っている。今までは夜勤帯を想定した訓練を行っていたが、本年度は日中帯を想定した訓練を行った。また、運営推進会議を通して地域に働きかけ、協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量の把握とともに、水分は水分チェック表で確認しながら支援をしている。必要に応じて刻み食や粥などを用意している。手作りを常に心がけて、利用者の好みによりメニューの変更などの対応をし、栄養のバランスを考えた食事を提供している。		
雪					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広くゆったりし、明るい日差しが入り利用者はそれぞれの居場所でくつろいでいる。職員は、対面式の台所で調理をしながら、話をしたり見守りをしている。2階には畳のスペースがあり、くつろげる空間となっている。写真や利用者と職員が一緒に作成した季節の飾り、鉢植えなどがあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真や使い慣れたものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※ は、重点項目。